

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 3 月 7 日作成)

小委員会名	高齢者・障がい者等居住小委員会		主 査 名：石井 敏 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)		委員長名：大原一興 主 査 名：黒野弘靖
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2016 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・ 高齢者・障がい者等の地域居住に関わる専門家、専門職との研究会の開催 ・ WGと連携しながら高齢者・障がい者等の地域居住を実践する先進的な取り組み事例の収集、検討および見学会の実施 ・ 仮設住宅および災害公営住宅における高齢者・障がい者等の居住の実態と課題の把握 ・ 上記の研究成果および4年間の活動をもとに、特に震災と高齢者・障がい者等の地域居住に焦点をあてた公開研究会の開催 (2016 年 1～3 月頃)		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査・石井敏 (東北工業大)、幹事・三浦研 (大阪市大)、幹事・神吉優美 (奈良県立大)、井上由起子 (日本社事大)、岡部真智子 (静岡英和学院大)、古賀紀江 (関東学院大)、小玉善郎 (日本福祉大)、橘弘志 (実践女子大)、谷本裕香子 (東洋大)、富安亮輔 (東洋大)、西野亜希子 (東京大)、橋本彼路子 (小山高専)、阪東美智子 (国立保健医療科学院)、福西保夫 (木庄)、水村容子 (東洋大)		
設置 WG (WG 名：目的)	高齢者・障がい者の居住に関わる最新事例集WG (全国に居住するメンバー会員が、全国および被災地における高齢者・障がい者等の居住 (施設、住宅、システム) に関わる最新の事例や情報を収集し、データベースとして蓄積する。それらを小委員会の活動 (研究会、見学会等) の基礎データとし、学会および会員の研究活動の基盤となる資料とする。)		
2015 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (いずれも WG と合同開催。見学会 2 回含む。)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	公開研究会「人と人がつながって新しいまちを創る～人口減少・超高齢化社会におけるコミュニティの役割～」 参加者数 59名 (講師2名含, 有料参加55名) (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 福島、東京での見学会を実施。高齢者・障がい者に関わる居住の場の最新事例を収集し、学ぶことができた。 2. 福島の仮設住宅団地および同団地に立地する福祉仮設住宅の見学により、被災地における高齢者・障がい者の状況について理解を深めることができた。 3. 小委員会開催にあわせて行った委員による最新の研究レビューにより、高齢者・障がい者を取り巻く社会状況や課題等についての理解を深めた。 4. 公開研究会において、地域居住を支える福祉のあり方、これからのまちづくりにおけるコミュニティのあり方について、広く意見交換をすることができた。4年間の小委員会のまとめにふさわしいテーマでの実施ができた。
委員会活動の問題点・課題	1. WG の活動（事例収集）が当初の目的（委員全員からの事例収集）を達成することができなかった。 2. 事例見学とあわせて行う勉強会、意見交換会で議論を深めてきたが、なかなか全員が参加可能な形での開催が出来なかった。日程調整のあり方を含めて検討する。公開研究は、土曜日開催ということもあり、盛況に終えることができた。ただし、土曜日開催については学会 HP からの web 申込み機能が使えないということで、幹事が対応したが、かなりの負担となった。土曜・日曜日開催であっても、web 申込みが可能な体制を検討していただきたい。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。